

URBAN

DESIGN

VISION

YOKOHAMA

横浜都市デザインビジョン(案)

これからの横浜をデザインするための羅針盤

本ビジョンは、昨今の社会変化などもふまえ、長年取り組んできた都市デザイン活動を再整理し、着眼点や価値観、取り組み方などの大事な要素を抽出してとりまとめ、**これからの都市デザイン活動の羅針盤**となるよう作成したものです。そして、**自分の生活と横浜をより豊かにしようとする人が、関わるまちの未来を話し合っ**て計画をつくったり、実現に向けて取り組んだりする際に、**参照し取り入れたり**することを想定しています。

横浜都市デザインビジョン（案）
—これからの横浜をデザインするための羅針盤—

横浜市

本ビジョンとともに目指すもの

都市デザイン活動の“日常化”を目指します

横浜の都市デザインは、「魅力と個性のある人間的な都市」という理念の実現を目指して、都市を様々な側面から総合的に捉えて価値ある風景をつくっていくことです。横浜の都市デザイン活動（＝都市デザインに取り組むこと）は、地域によるシンボルツリーの保全などの身近な活動から、ベイブリッジやみなとみらい21地区の景観形成などの大きなスケールの活動まで、大小様々に横浜固有の価値ある風景を生み、多くの人を惹きつけています。

社会と時代は刻々と変化しています。特に昨今、横浜のみならず、日本さらには世界全体が大きく変化し、様々な場面でこれまでのやり方や考え方だけでは通用しないことが増えていると多くの人を感じているのではないのでしょうか。社会として成熟した中、都市が抱える問題・課題・要求・需要は、複雑かつ多様化しています。都市全域に関わるものから小さなエリア固有のものまで、対象範囲の規模も均一ではありません。さらには、分野や世代、立場ごとにも分かれ、及ぶ領域は多岐に渡ります。そしてそれらの多くは一朝一夕に解決されるものではなく、長い時間を要するものです。都市を様々な側面から総合的に捉えて価値ある風景をつくる都市デザインは、そんな時代においてより必要とされ、個々の生活と横浜をより豊かにしていくことができます。その時、より良い効果と成果を上げるために、都市デザインの考え方やその活動のあり方を改めて見直し、再整理する必要があります。

個々が都市横浜の未来の風景を思い描き、共有し、日々実現に向けて主体的に取り組んでいる。そのような状況にすることを「都市デザイン活動の日常化」と呼び、本ビジョンとともに目指します。

都市デザイン活動（＝都市デザインに取り組むこと）が、複雑かつ多様な都市の問題・課題・要求・需要に対してより最適な成果を生むために、横浜市全域で積極的かつ持続的に取り組まれる状況をつくっていきます。

都市デザイン活動が日常化された都市とは、都市デザインが日々の生活習慣や企業活動の一部となって主体的に取り組まれ、さらにはそうした活動が継承されて習慣になることで継続的にその都市固有の価値ある風景が生まれ続け、複雑かつ多様な時代や社会にあっても人が豊かに生活している都市です。それは、まさに横浜が都市デザインの理念に掲げる「魅力と個性のある人間的な都市」の実現を目指すことなのです。

本ビジョンは、自分の生活と横浜をより豊かにしようとする人と共有する羅針盤です。

目次

冒頭文 本ビジョンとともに目指すもの

序章 横浜都市デザインビジョンの基礎

- 0-1. 横浜都市デザインの理念 . . . 08
- 0-2. 横浜都市デザインの骨格 . . . 10
- 0-3. 本ビジョン策定の目的と構成 . . . 12

第1章 都市への着眼点

- 1-1. 着眼点をもつ意味・意義 . . . 16
- 1-2. 着眼点が活動に与えるもの . . . 18

第2章 共有する価値観

- 2-1. 価値観を共有する意味・意義 . . . 22
- 2-2. 価値を共有する効果 . . . 23
- 2-3. 5つの価値 . . . 24

第3章 実現に向けた取り組み方

- 3-1. 取り組み方の意味・意義 . . . 28
- 3-2. 取り組み方を明確にする3つのポイント . . . 30
- 3-3. 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方 . . . 32

別章 都市横浜の風景スケッチブック

- 一風景スケッチブックの意味・意義 . . . 48
- 一風景スケッチ 00~07 . . . 50

- 用語解説 . . . 68

一序章

横浜都市デザインビジョンの基礎

序章 横浜都市デザインビジョンの基礎

0-1 横浜都市デザインの理念

横浜都市デザインの理念は 「魅力と個性のある人間的な都市」の実現です。

横浜は「魅力と個性のある人間的な都市」の実現を都市デザインの理念として掲げ、取り組んできました。

「魅力と個性のある人間的な都市」とはどのような都市か。

その解釈は時代や社会に応じて変化しますが、一方で変わることのない普遍性と柔軟性をもった理念です。そして、時代や社会に応じて、魅力とは何か、個性とは何か、人間的とは何かを考えることの重要性も伝えている言葉です。

本ビジョン策定にあたり、「魅力と個性のある人間的な都市」を以下のように解釈します。

- 魅力のある = 暮らしたい、働きたい、また訪れたいなどの思いや行動を引き出す力がある
- 個性のある = 他の地域との違いがあり、そこにしかない固有の特徴がある
- 人間的な = 人の生活や活動が豊かなものになっている

複雑かつ多様な問題・課題・要求・需要への対応が求められる時代において、横浜がこのような都市となるためには、行政や専門家だけでなく、より多くの主体的に取り組む市民の力が必要です。

序章 横浜都市デザインビジョンの基礎

横浜都市デザインビジョン

0-3 本ビジョン策定の目的と構成

本ビジョンは、個々が風景を思い描き、共有し、その実現に向けて取り組む際に、参照し取り入れられるものとして作成しています。

本ビジョンでは具体的な未来像を提示するのではなく、個々が未来像を描き、その実現にむけて都市デザインに取り組むにあたっての重要な要素を大きく3つにとりまとめて挙げています。

●都市を捉えるためには、都市への着眼点をもつことが重要です

これまでの都市デザインは道路や建物などの「空間」づくりで多くの成果をあげてきました。しかし時代と社会が大きく変化してきた現在においては、個々の生活から企業活動までを含む「営み」、そして空間を体験して得る感情や生活・活動への意欲などの「感性」への着眼も重要です。この3つを意識することで、都市の捉え方と都市デザインのアプローチに総合性を与えます。

・・・第1章

●個々の活動が向かう方向性を共有するために、価値観を共有することが重要です

個々の都市デザイン活動が、自由かつ活発に活動されながらも、全体として大きな方向性を共有するために、価値観の共有が必要です。本ビジョンでは5つの価値を提示し、これらをまとめて価値観とします。5つの価値は、これまでの都市横浜が培ってきたものであり、今後も都市横浜固有の価値として高めていくものです。

・・・第2章

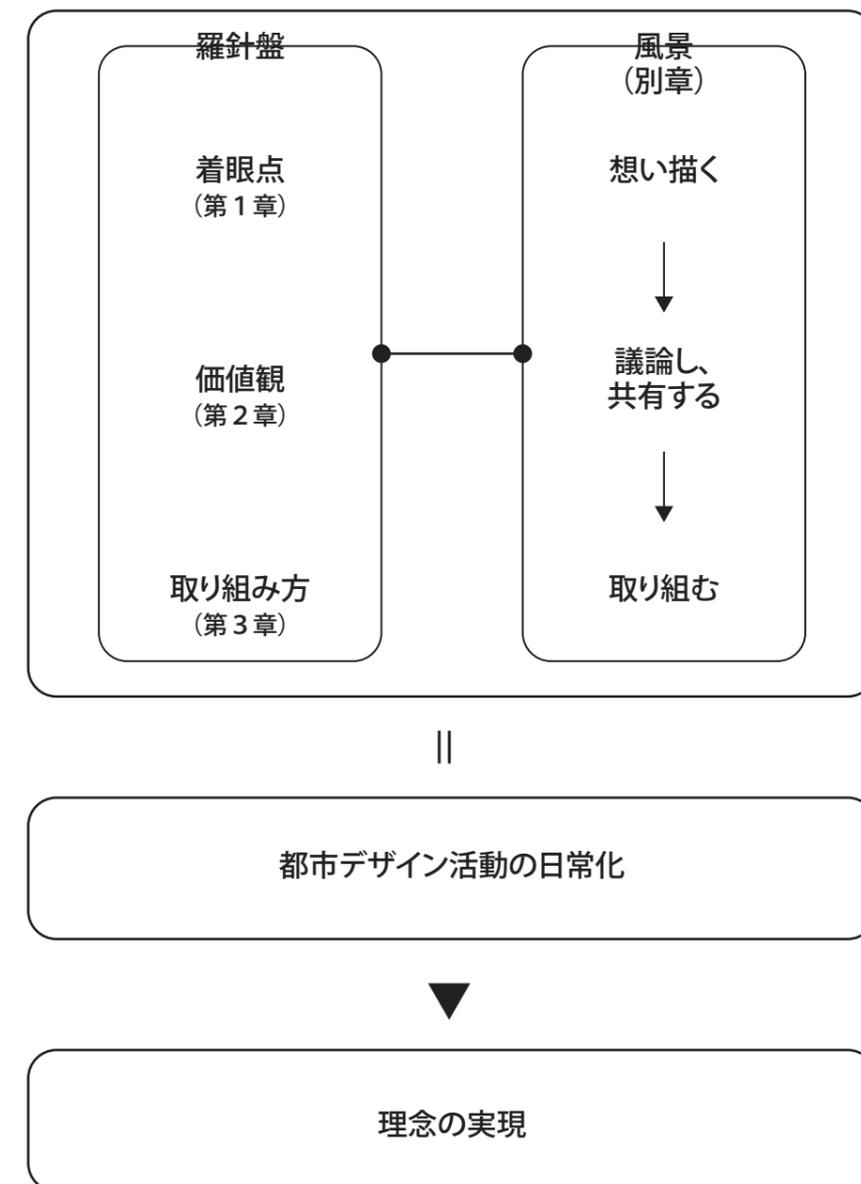
●価値ある風景を実現するために、取り組み方を掲げることが重要です

目指す価値ある風景の実現のために、個々が自ら取り組み方を掲げることが重要です。その際、個々の活動にふさわしい、姿勢、視点、行動を考えることでより取り組み方が強化されます。また、ここでは、都市デザイン行政としての取り組み方も示します。

・・・第3章

本ビジョンには別章として風景スケッチブックがついています。これは、個々が思い描いた風景を書き留めていくものであり、様々な人と議論・共有していく際のたたき台にもなるものです。そのため、本ビジョンには既に横浜市が思い描いた都市横浜の未来の風景が描き込まれていますが、これが完成ではなく、個々が描き加えていくことを想定しています。

・・・別章



—第1章—
都市への着眼点

1-1 着眼点をもつ意義・意味

都市を捉える着眼点をもつことで、より風景が想像しやすくなります。



都市は、様々な人が生活し、働き、訪れるところです。また、建物や道などの都市基盤、海、川、山などの自然環境があり、いろいろな時間が流れているなど、様々な要素で構成されています。そんな複合的な都市を自分なりに捉えようとしてみるのが大切です。その時着眼点をもつことが必要です。着眼点をもつことで、都市をより自らの実感や日々の生活に引き寄せて、身近な風景として想像することができるようになります。

本ビジョンでは「空間」「営み」「感性」の3つの着眼点をあげます。

都市には、地形や植生、道や建物などにより形づくられる「空間」だけでなく、日々の生活や移動、観光、企業活動などの「営み」があります。さらには、そうした「空間」において「営み」を行おうとする際の動機、そして、そうした「営み」を通じた心地よさ、喜びや楽しみなどの「感性」も都市の重要な要素です。これら3つの豊かさが都市の豊かさ、そして個々の生活の豊かさにつながります。

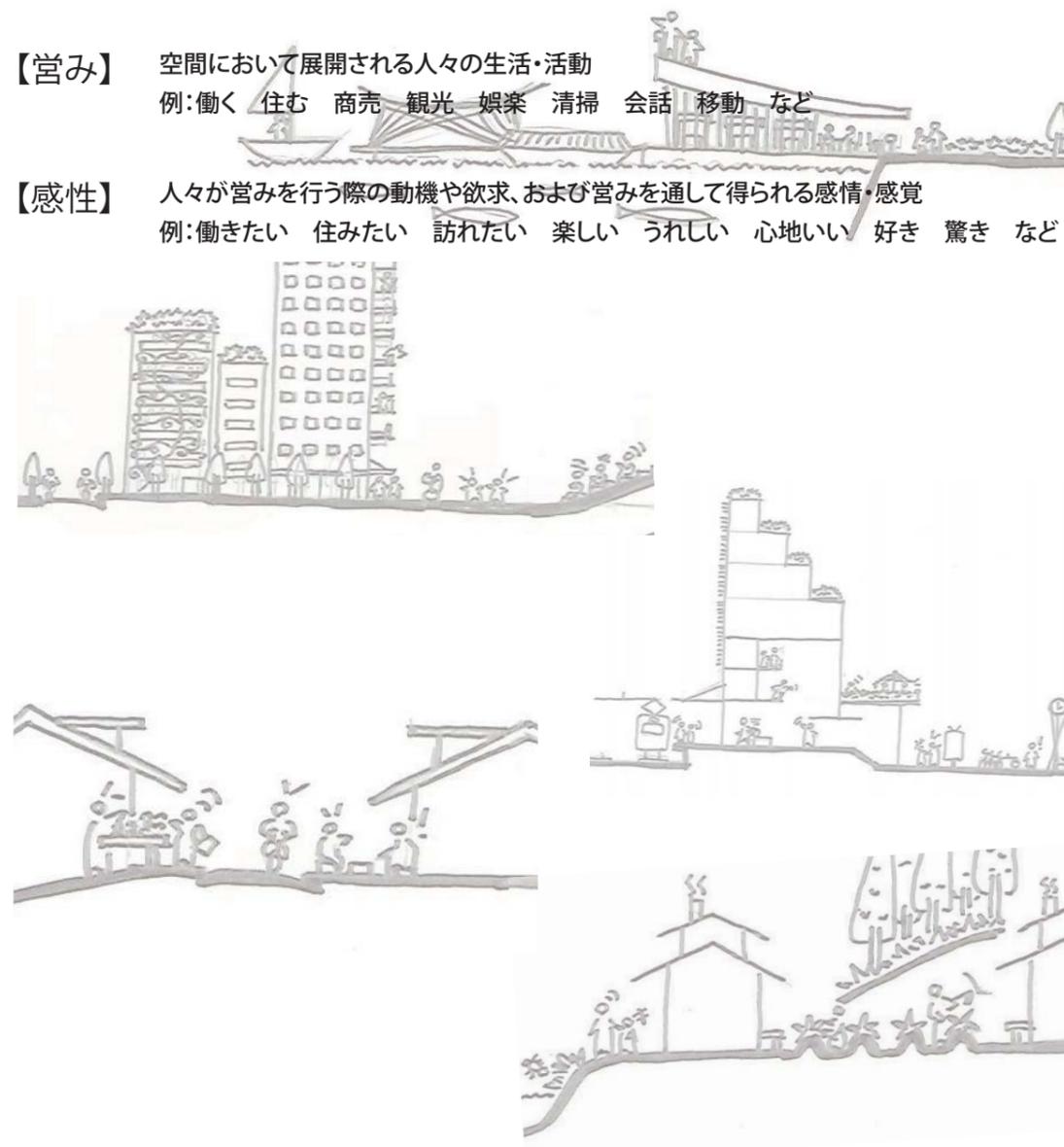
「魅力と個性のある人間的な都市」という横浜都市デザインの理念は、これらを豊かにする重要性を伝えているとも言えます。

自分の生活と横浜をより豊かにしようと風景を思い描くとき、これら3つの着眼点をもつことで、思い描く風景がより具体的で豊かなものとなるのです。

【空間】 自然物・人工物などの物的要素により構成される都市基盤や環境
例:建物 街並み 道 広場 駅 港 緑地 海 川 山 など

【営み】 空間において展開される人々の生活・活動
例:働く 住む 商売 観光 娯楽 清掃 会話 移動 など

【感性】 人々が営みを行う際の動機や欲求、および営みを通して得られる感情・感覚
例:働きたい 住みたい 訪れたい 楽しい うれしい 心地いい 好き 驚き など



1-2 着眼点が活動に与えるもの

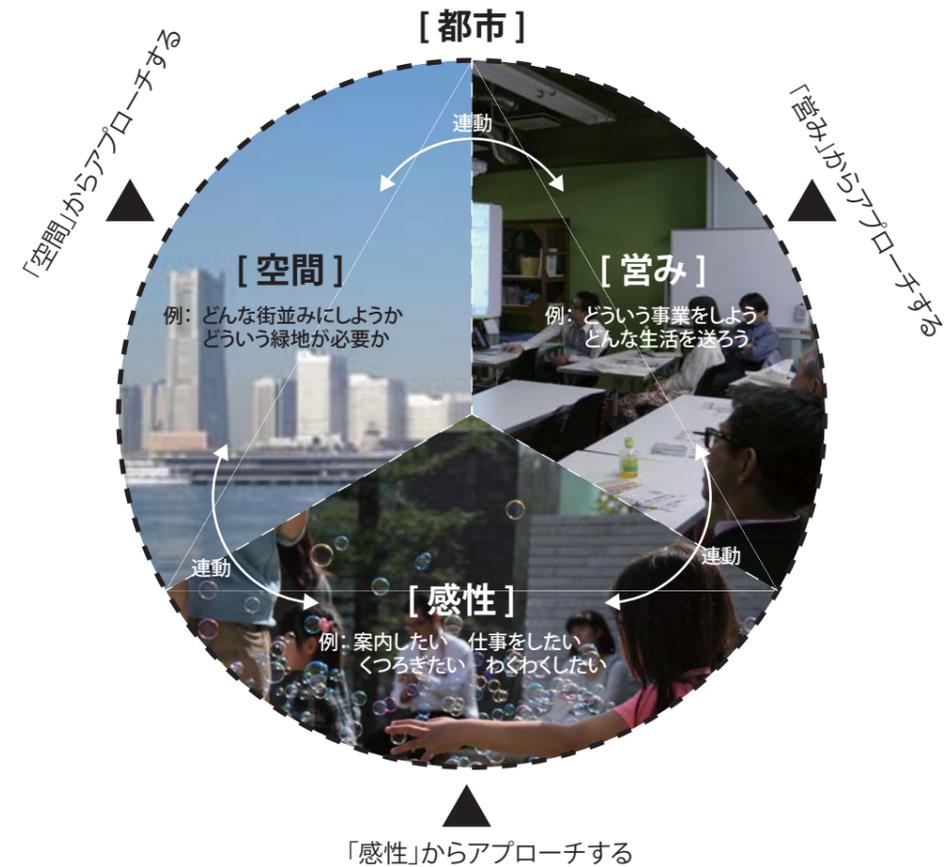
3つの着眼点は、思い描いた風景の実現に向けて取り組む際の出発点に選択肢を与え、活動に総合性を与えます。

3つの着眼点は、都市デザイン活動の出発点に選択肢を与えます。

街並みや緑地などの「空間」から始める場合、住まい方や事業など「営み」から始める場合、住みたい働きたいなどの「感性」から始める場合など、思い描いた風景を実現するための活動ごとにそれぞれ最適な出発点があります。3つの着眼点は、どこから着手すると良いのかを考える選択肢にもなり、活動が行き詰った際に別の出発点から取り組みなおす選択肢を与えるものでもあります。

3つの着眼点は、活動に総合性を与えます。

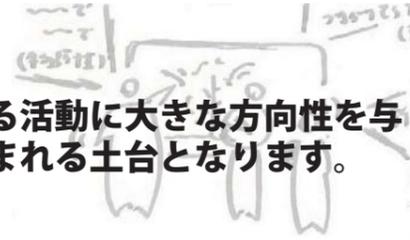
都市を3つの着眼点で捉えるということは、都市デザイン活動においても3つの着眼点に取り組むことでもあります。基盤整備などにおいては「空間」に、事業や産業の構築などにおいては「営み」に、サービス産業の充実やにぎわい創出においては「感性」に、つついその活動の重心が置かれ、生まれる成果が偏ったものになるおそれがあります。しかし、様々な要素によって構成される複合的な都市とそこでの生活を豊かにしていくためには、1つの着眼点のみに取り組むだけでなく、残り2つの着眼点にも取り組み、総合的な活動にすることが重要です。



—第2章—
共有する価値観

2-1 価値観を共有する意味・意義

価値観を共有することは、個別に取り組みられる活動に大きな方向性を与え、個々の活動がより自由かつ活発に取り組みられる土台となります。



都市横浜の未来の風景は、行政や専門家など特定の人や組織が描くのではなく、自分の生活と横浜を豊かにするために個々が思い描くものです。そして、都市デザイン活動は、個々がその実現のために取り組むものです。その際、個々の活動が生む価値が都市横浜全体の価値に結びつくものとなるために、大きな方向性として価値観を共有する必要があります。つまり、1つの未来像を共有しその実現に取り組むのではなく、個々が価値観を共有して自ら描く風景の実現に取り組むのです。

また、価値観を共有することは、各活動内でそして各活動同士で最低限の約束事を共有することになり、個々の活動に自由度を与え、より活発に取り組まれることを促すことにもなります。約束事として守るべきところを守りながら個々とその活動が個性や能力を発揮することになり、個々の活動がその過程で迷った際に立ち返るよりどころにもなります。つまり、個々の活動が方向性を見失わず、目指す風景の実現に向かって着実に取り組む土台となるのです。

2-2 価値を共有する効果

価値観を共有し高めることは、都市の質を総合的に高めるものです

都市基盤の整備に主眼が置かれてきた時代には、施設や住宅、公園、道路などが整備された規模や数量など、量的な価値が重視されてきました。しかし、多様で複雑な社会と時代においても、個々の生活と都市横浜をより豊かにしていくためには、それら都市基盤を使いこなし、質的な価値を重視して取り組む必要があります。つまり、価値観の共有は質を重視することを意味するのです。

それは安全性や機能性、そしてその充実のための基盤整備などを軽視するものではありません。質を高めていくための基礎的な要素としてそれらを位置づけ、それぞれの都市デザイン活動がより高い質の成果をあげるために、様々な側面で総合的に判断し、整備を最適化していくことへとつなげます。つまり、価値を共有し高めることは、都市の基礎的要素を充実させることも含み、都市の質を総合的に高めることです。

第2章 共有する価値観

横浜都市デザインビジョン

2-3 5つの価値

5つの価値は、都市横浜が培ってきた価値であり、これからさらに高めていく価値です。

創造性

人々の気質や技術、企業活動や経済的活力、歴史的建造物や景観などの地域の特徴を活かし、個々の特徴を相互に関連付け、社会の状況にあわせた先進的な価値を生み出していき、創造性のある都市

横浜が、都市の先進事例として取り上げられることがあるのは、**既成概念にとらわれずに時代を切り開く、創造性のある都市**だからと言えるのではないのでしょうか。多様で複雑な課題等がある社会においても豊かな都市となるためには、**蓄積してきた資源（都市基盤・活動・人・歴史等）を再編・再構築し、先取的な活動や成果を生み出す**創造性が求められます。

親近感

人と人、人と自然のふれあいなどの場や人々の生活・活動に呼応した快適な街並みが形成され、人々の交流や地域の活動が活発になり、**新たな人やものごととの出会いが生まれる、親近感のある都市**

横浜は、開港以来、多くの人を惹き寄せ、発展してきました。それは、**住みやすい、居心地がいいと感じる、人と都市の距離が良好な親近感のある都市**だからと言えます。高齢世帯、単身世帯が増加し、身近な緑が減少し続けている社会において、**人と人の結びつきを維持し、自然環境とも共生していくために、親近感の重要度はますます増していきます。**

寛容性

世代や国籍などの人の特徴、様々な住まい方・働き方、それぞれの地域の特徴などが尊重され、人々による新たな挑戦・失敗を受け入れながら発展していく、**懐の深い、寛容性のある都市**

横浜は、開港以来、様々な国・地域との結節点となり、様々な人や物、文化が交流してきました。「三日住めば浜っ子」と言われるように、**どんな人も受け入れる気質をもった、寛容性のある都市**です。新たなものごとが生まれる土壌となるためにも、**様々な人やものごとを受け入れ続ける懐の深さは都市横浜にとっての大切な財産として高めていく必要があります。**

有機的

人々の生活や企業・地域団体などの活動、公共施設や自然環境などの諸要素、都心部・郊外部・他都市などの多様な地域が密接に連携し、柔軟につながりながら全体として自律する、**有機的な都市**

横浜には、それぞれの特徴をもつエリアがあり、**それぞれの個性が発揮されながらも、地域や事業が互いに連動しまとまりながら成長する、有機的な都市**として形成されてきました。この先も、**多彩な人材や経済活動・地域活動・社会活動などが密接に連携し合い、総合的に発展していくために、有機的な都市であることが求められます。**

物語性

地形、自然、街並み、暮らし、歴史、文化など、都市横浜の特徴を見出し、各地域や活動の文脈としてつないでいくことで、**愛着や誇りが生まれ、奥行きのある風土が育まれる、物語性のある都市**

横浜は、**異国情緒あふれ、歴史性と現代性が共存する雰囲気から、映画、音楽、文学など、様々な物語が生まれる土壌**となり、生活や都市に深みを与えてきました。これからも長く市民や世界の人々から愛される都市であるために、**横浜に暮らす人々、活躍する人々が主役となって新たな歴史や人生を紡いでいきたくなる、物語性をより高めていく必要があります。**

—第3章—

実現に向けた取り組み方

第3章 実現に向けた取り組み方

3-1 取り組み方の意味・意義

**思い描いた風景の実現のために、
個々が取り組み方を掲げることが重要です。**



風景を思い描き共有したあと、次は実現に向けて取り組むことになります。そのために個々が取り組み方を見出し、掲げることが重要です。

個々の立場や活動ごとに取り組み方は違います。そのため、個々の活動に応じて自らが取り組み方を考え、組み立てていくことが重要になります。

また、個々が自らの取り組み方を明確にすることは、他者との相互理解につながり、互いに連携する際に有効に機能し、個々の都市デザイン活動を大きく展開することにもつながります。

3-2 取り組み方を明確にする3つのポイント

**取り組み方を考えることは、姿勢・視点・行動を考えることであり、
思い描いた風景の実現の仕方をより具体的に考えることです。**

取り組み方を考える際のポイントとして姿勢・視点・行動があります。

とるべき**姿勢**、もつべき**視点**、やるべき**行動**を自ら考え、意識することで、関わる都市デザイン活動に推進力が生まれます。

とるべき姿勢を考えることは、どういう立ち位置で臨むかを考えることです。それは例えて言えば、前面に立つのか、脇を固めるのか、後押しするのか、応援するのか、などを考えることです。もつべき視点を考えることは、どこを注視するかを考えることです。それは、関わる活動をより良くするために、自らの立ち位置にとって重視するところがどこかを考えることです。やるべき行動を考えることは、具体的に何をどういう手順と方法で進めるかを考えることです。

つまり、取り組み方を掲げることは、風景を実現するためには何をしていけばいいのか、それを具体的に考えることでもあるのです。

取り組み方

||



姿勢

: どういう立ち位置で臨むか

+



視点

: どこを注視するか

+



行動

: 何をどのようにするか

第3章 実現に向けた取り組み方

横浜都市デザインビジョン

3-3 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方

【都市デザイン活動の日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方 概要】

ここでは、都市デザイン活動の日常化のための、都市デザイン行政の取り組み方を示します。

※詳細は次ページ以降を参照。※UD活動＝都市デザイン活動



姿勢

「舵取り」として臨む



視点

5つのことに注視する



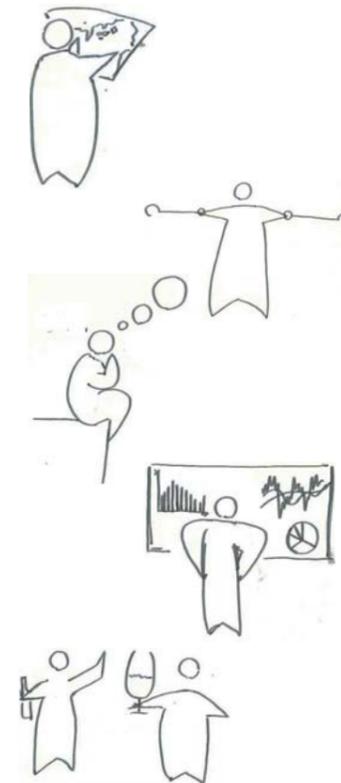
行動

日常化プロセスを進める

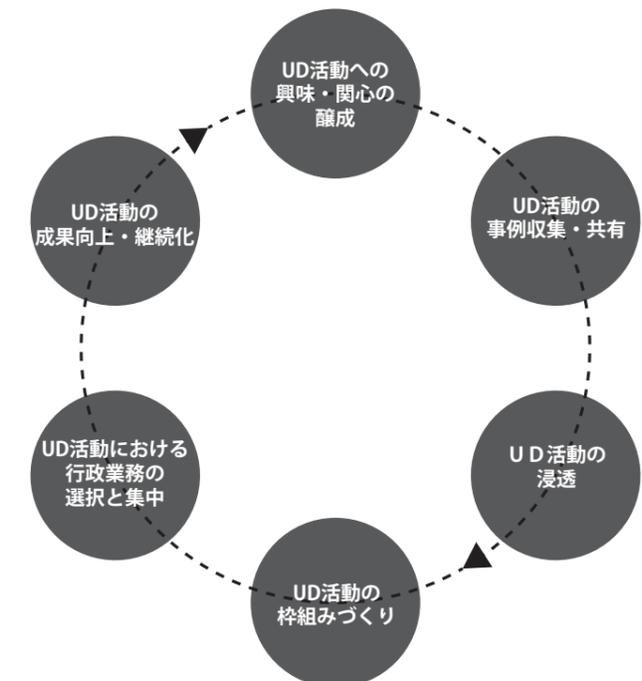
“先導”から“舵取り”する行政へ

5つの視点

1. 都市全体を俯瞰する視点
2. 様々な要素をつなぐ視点
3. 物事の本質をつきつめる視点
4. 持続的な効果をもたらす視点
5. 変化の余地をのこす視点



都市デザイン活動の日常化プロセス6段階



第3章 実現に向けた取り組み方

3-3-1 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方：姿勢



都市デザイン行政は「舵取り」をしていきます。

ここからは、横浜市としても、姿勢・視点・行動を提示し、これからの都市デザイン行政（＝行政による都市デザイン活動）の取り組み方を明確にします。

複雑かつ多様な都市の問題・課題・要求・需要に対して最適な成果を生むためには、主体となって個別に集中的に取り組む人や組織のほか、客観的かつ総合的に幅広く取り組む人や組織も必要です。

これまで公共事業やまちづくりのモデル事業などを通して都市デザインの事例をつくり、その有効性を伝えるために「先導」する印象が強かった横浜都市デザイン行政ですが、これからは、それぞれの地域や分野で取られる活動が、それぞれ最適な効果を上げ、かつ、都市横浜全体でみた時も最適な効果を上げるものとなるよう、幅広く総合的に関わる「舵取り」を担うことをより意識していきます。

各都市デザイン活動と都市デザイン行政が互いに補完しあう関係となった時、各活動はより円滑に進み、個別の成果が都市全体の成果にもなり、都市横浜に与える風景と価値の質が上がります。

3-3-2 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方：視点



5つの視点に注視して取り組みます

これからの都市デザイン行政は、日常化に向けて、活発な活動を促すとともに、様々な調整を通して活動の質を高めていくことができるよう取り組みます。ここでは、都市デザイン行政としてそれぞれの活動に関わるにあたり、つつい当事者だけでは見落としがちで、しかし都市横浜に価値ある風景をもたらす上で重要な視点を提示します。

都市全体を俯瞰する視点

現場から市全域までの幅広い視点を持ち、社会の状況や地域固有の特徴を読み取りながら、各都市デザイン活動が領域を横断し、総合的なものとなるよう、都市全体を俯瞰する視点を意識します。

様々な要素をつなぐ視点

過去から現在、子どもから高齢者、分野や地域同士などを関連付けながら、各都市デザイン活動が互いに関係を持ち、連携したものとなるよう、様々な要素をつなぐ視点を意識します。

ものごとの本質をつきつめる視点

各活動の意味や意義、全体の豊かさから細部の美しさまでの一貫性などを確認しながら、各都市デザイン活動がより質の高い成果を上げるよう、ものごとの本質をつきつめる視点を意識します。

持続的な効果をもたらす視点

個々の生活や経済活動、地域社会の状況や地球環境の変化などを見極めながら、各都市デザイン活動が都市に長期的な利益を生み出すよう、持続的な効果をもたらす視点を意識します。

変化の余地をのこす視点

活動の枠組みや機能・用途の柔軟性などを確認しながら、各都市デザイン活動がつねに新たな発想や活力やを呼び込むものとなるよう、活動とその成果に変化の余地をのこす視点を意識します。

第3章 実現に向けた取り組み方

横浜都市デザインビジョン

3-3-3 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方：行動



様々な側面から総合的に日常化に取り組みます。

舵取りする者としての都市デザイン行政が取り組む範囲はこれまで以上に広がっています。特に、都市デザイン活動の日常化を目指す上では、都市デザイン行政に求められる行動範囲は広く、個々の意欲・活力を最大限に引き出すことに様々な側面から注力していきます。

ここでは、都市デザイン行政のこれからの取組を示すとともに、各取組が日常化に向けたプロセスの中での位置づけを示していきます。

●都市デザイン活動への興味・関心の醸成

○横浜都市デザインビジョンの周知

本ビジョンを知り、共有してもらえよう、各地域・各分野への周知を行う。

例：個々の生活や都市の課題などを議論するワークショップや、その場で風景を思い描き共有するワークショップの開催など

○都市デザイン活動に触れる機会づくり

サラリーマンから主婦、子どもや学生から年配の方まで、都市デザイン入門者から上級者まで、幅広く都市デザインに触れる機会をつくり、身近なものにする。

例：関心のある人とともに学ぶ研究会の開催、次世代が都市デザインを楽しめるキッズイベントの開催、多世代で都市デザインに触れるピクニックイベントの開催、など

○行政職員の都市デザインの考え方の共有

在職年数や職種を問わず、横浜市職員が都市デザインを学ぶことができる機会をつくる。

例：行政職員が都市デザインの視点から業務を考える講座の開催、最新の都市デザイン事例の視察や異分野の庁内交流を行う研究会の開催、など

●都市デザイン活動の事例収集・共有

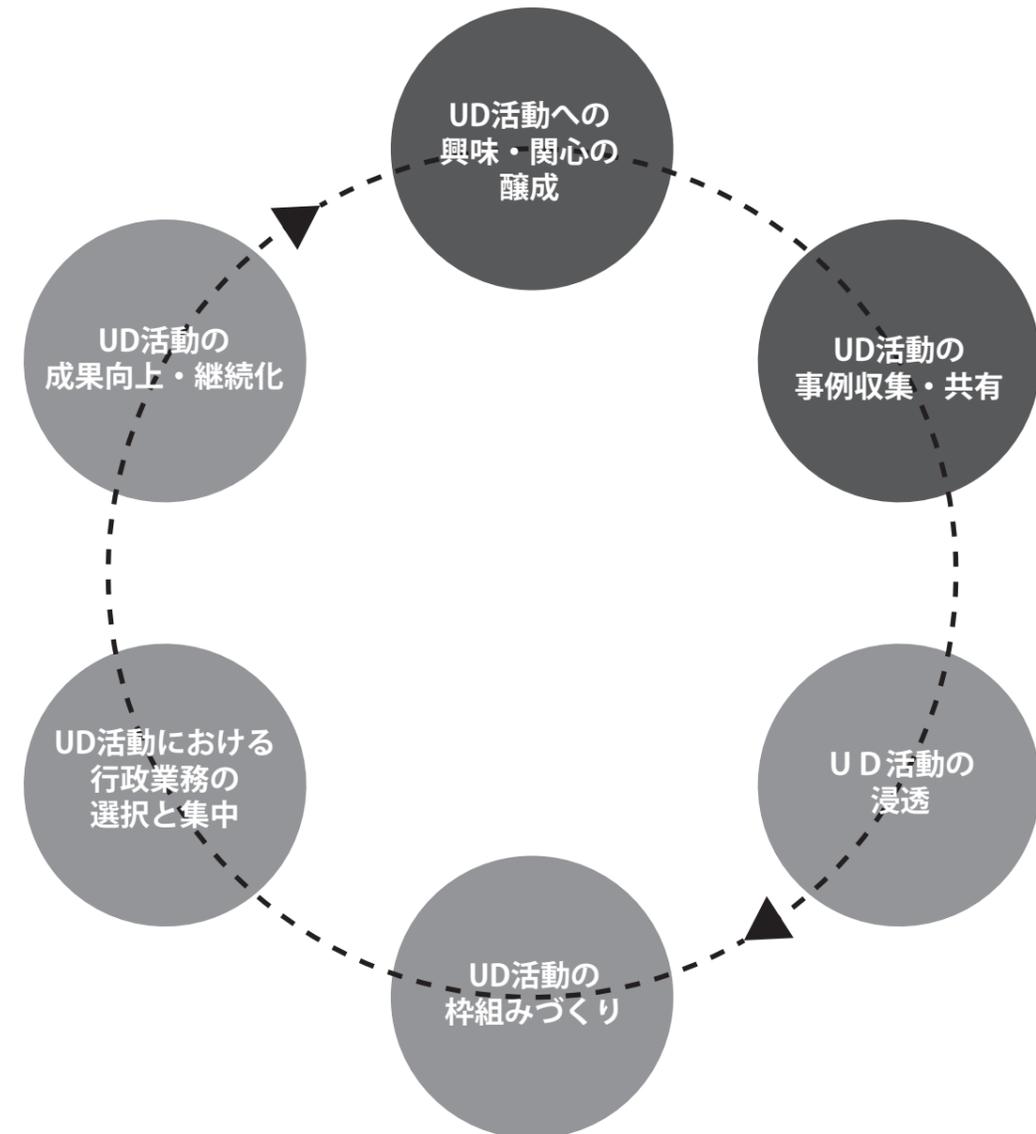
○都市デザイン活動のオープンデータ化

各地域で取り組まれた活動の結果や手法を記録・検証・編纂し、行政内外で共有する情報として公開する。

例：パンフレットやリーフレット、マップ、書籍の発行など情報発信、各都市デザイン活動の事例・検証をリアルタイムで蓄積・紹介する都市デザインに関するデータベースの設置など

【都市デザインの日常化プロセス6段階 概念図】

※UD活動=都市デザイン(Urban Design)活動



3-3-3 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方：行動



都市デザイン活動の日常化に向けた行政の行動 (つづき)

●都市デザイン活動の浸透

○都市デザイン活動の産業化

都市の課題や問題に対して都市デザインの観点から取り組む新規事業者が育成される仕組みをつくり、後押しする。

例：都市デザインを事業として取り組むスタートアップセミナーの開催、など

○都市デザインの研究と実践の後押し

研究が実際に社会で実践される場を提供し、研究活動がより有効に社会に還元されることを後押しする。

例：課題や情報提供、地域との橋渡し、都市デザインの産学連携事業、社会実験の実施協力、など

○都市デザイン活動の地域での共有・推進

地域別に、様々な問題や課題を挙げ、話し合い、企業や研究機関も加わり、論点の整理や軌道修正などを行いながら、各地域で都市デザイン活動を考え、取り組む場をつくる。

例：地域や横浜の都市デザインを考える協議会の設置、など

●都市デザイン活動の枠組みづくり

○都市デザインのテーマの提示

分野ごと、地域ごと、または都市横浜全域に対して、都市デザイン行政の観点から、今後検討が必要なテーマや課題などを提示し、活動を活発化させます。

例：テーマや課題を探る研究会の開催、など

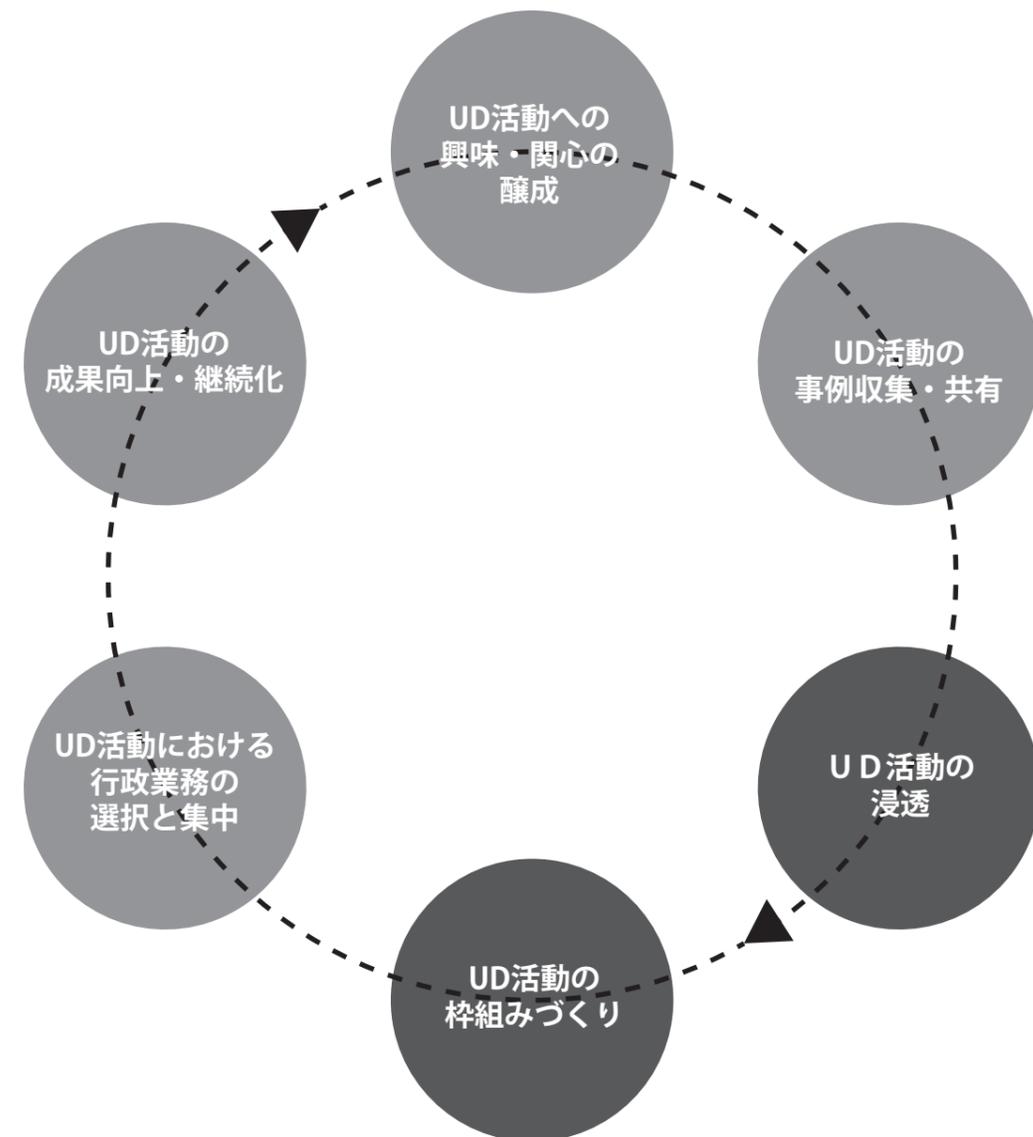
○異なる分野の連携環境づくり

異なる分野・立場の人が対等に議論し活動することができる場をつくる。

例：コンソーシアムやアーバンデザインセンターの設置、
都市デザインに関するフォーラムの開催など

【都市デザイン行政が取り組む日常化への行動 概念図】

※UD活動=都市デザイン(Urban Design)活動



3-3-3 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方：行動



都市デザイン活動の日常化に向けた行政の行動 (つづき2)

●都市デザイン活動における行政業務の選択と集中

○率先事業・モデル事業の実施

横浜市が率先して取り組むべき事業を精査・選択し、集中的に注力する。また、社会実験性の強い事業や新たな試みなどに対して積極的に取り組む。

例：公共施設や公共空間の利活用など、

○制度設計・運用

新たな制度を設けたり緩和したりしながら、より活動が自由かつ活発に行える土壌をつくる。

○協議体制と質の強化

各活動や事業がより高い質の成果を上げるよう「協議」の流れと体制を整え、迅速かつ柔軟に各活動と連携できるよう、関係各局・各部署から成る各課題や事業ごとにチームを編成して対応する。

●都市デザイン活動の成果向上・継続化

○造形や景観など目に見える形の質の向上

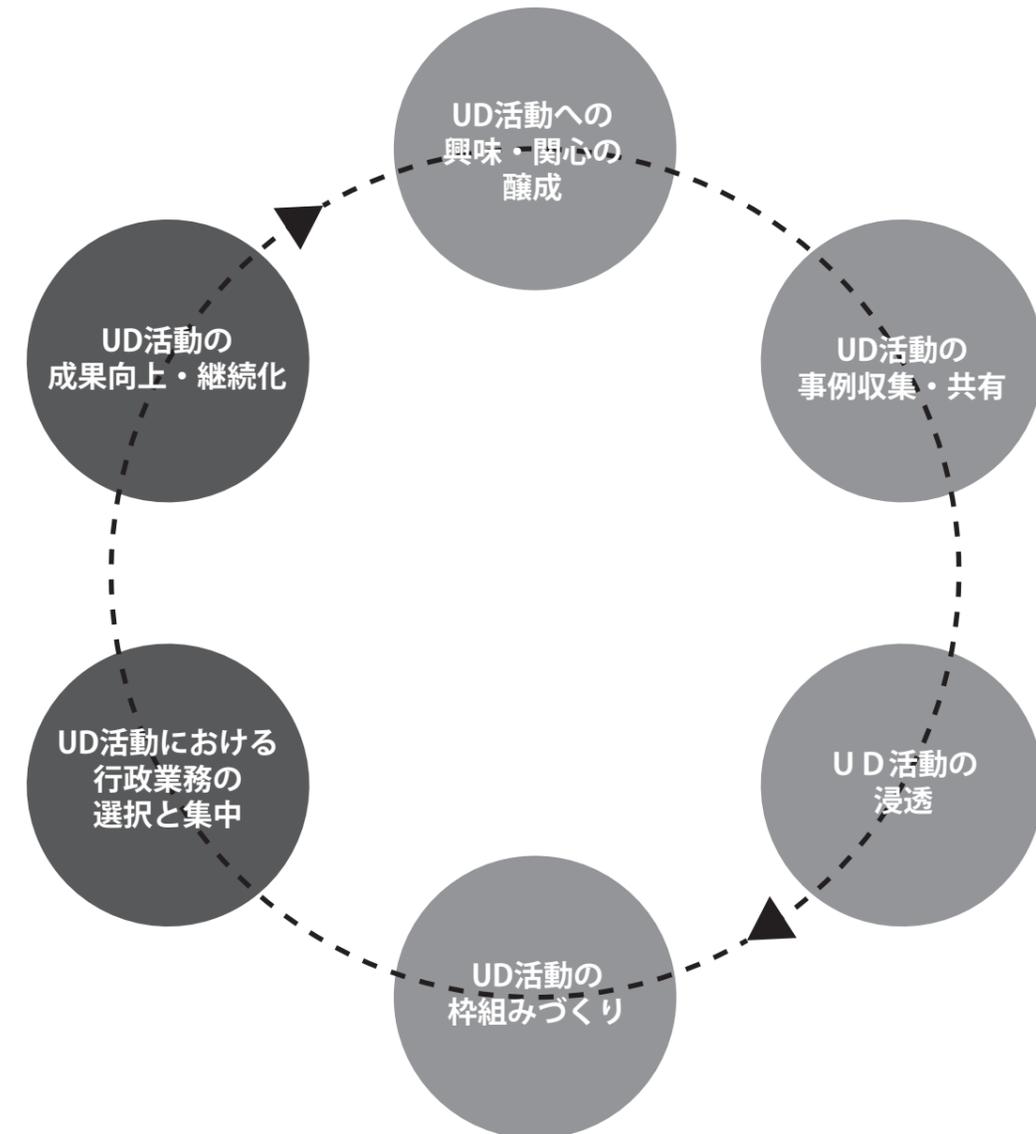
各都市デザイン活動による影響が、都市で生活する中で、目に見えたり感じたりするなどして実感できるように、意匠調整などを通じて各活動が生む形態の美しさを高める。

○各活動の継続化・習慣化

各都市デザイン活動にできる限り継続的に関わり、価値が持続的なものとなるようにし、各都市デザイン活動が生んだ成果や価値、そしてその活動自体が、後世に伝えられ、地域や分野の文化となっていくことを推進する。

【都市デザイン行政が取り組む日常化への行動 概念図】

※UD活動=都市デザイン(Urban Design)活動



3-3-3 日常化に向けた都市デザイン行政の取り組み方：行動



都市デザイン活動の日常化を推進する、 都市デザインの専門性を強化していきます。

●都市デザインを専門とする部署がある強みを活かし、触媒となって、個々の都市デザイン活動の素地をつくります

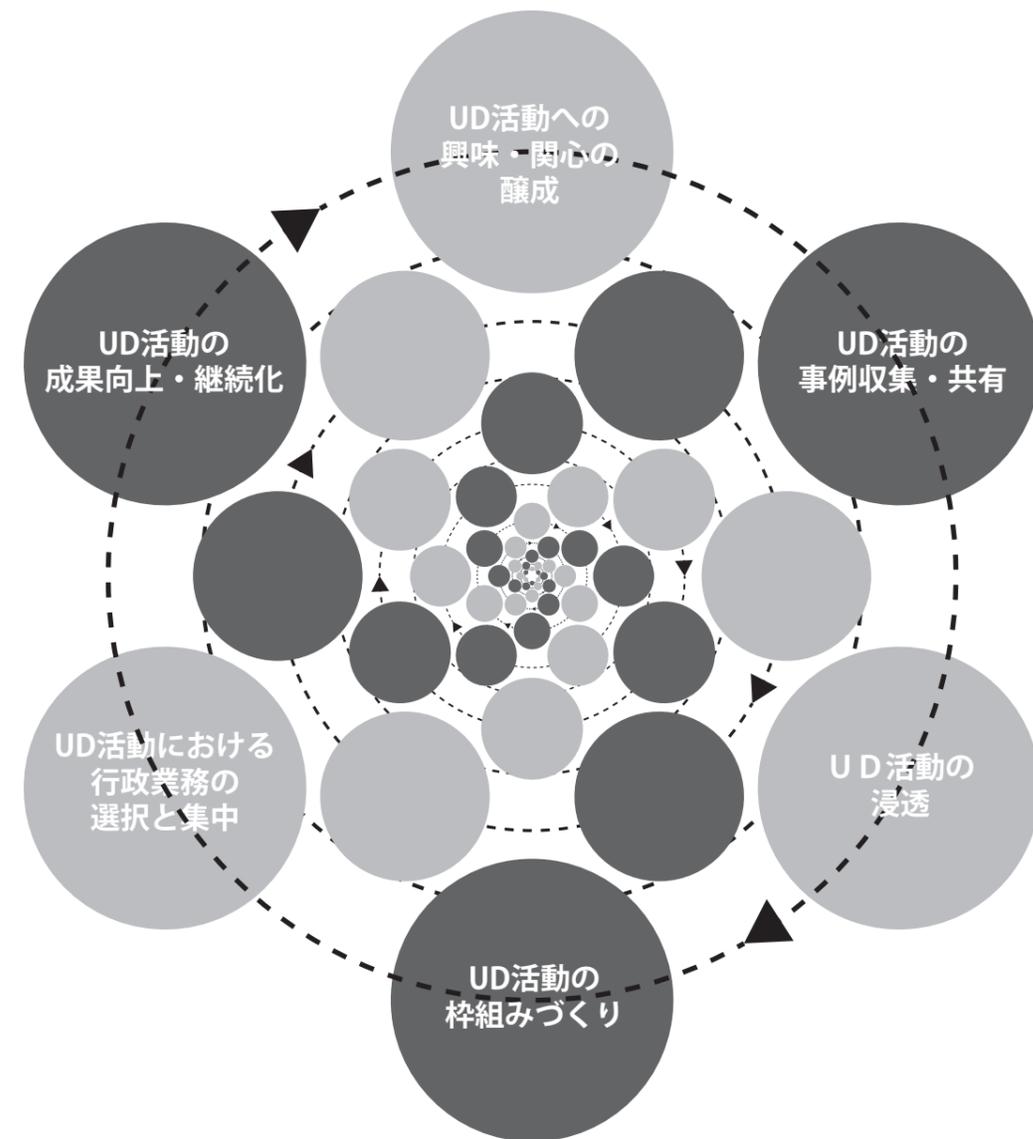
横浜市は、都市デザインに取り組み始めてまもなく都市デザイン担当を置き、さらにその後都市デザインを専門とする部署「都市デザイン室」を設置し、都市デザイン行政に取り組んできました。都市デザインを専門とする部署があることで、行政の側として果たすべき役割と**専門性を活かし**、公共空間のデザインや景観の調整、要綱や条例づくりなどを行ってきました。また、**特定の分野や業務範囲に拘束されない総合性を活かし**、横断的な庁内の体制づくりや、まちと行政とのつなぎ役を担ってきました。

今後も、専門部署をもつ都市デザイン行政として、これまで培ってきた**多くの経験と知見を活かし**ながら、自ら先進的な取組を行うとともに、**様々な領域をつなぐ触媒となって素地をつくり**、都市デザイン活動の**日常化プロセスを増進し**、都市デザイン活動の**日常化を目指して**取り組んでいきます。

また、思い描いた風景を実現に向けてどういう活動を始めればいいのか、始めた活動をどうすればより展開できるのか、活動が生む成果をより高めるためにはどうすればいいのか、など本ビジョンだけでは応えられない都市デザイン活動の全般から細部の様々な課題に対して、都市デザイン専門部署では相談・協議に応じていきます。

【専門部署によって増進する日常化プロセス 概念図】

※UD活動=都市デザイン(Urban Design)活動



一別章一

都市横浜の風景スケッチブック

別章 都市横浜の風景スケッチブック

横浜都市デザインビジョン

風景スケッチブックの意味・意義

横浜都市デザイン活動は、風景を想い描くところから始まります。

都市への着眼点を持ち（第1章）、個々の活動が全体として方向性を共有するために価値観を共有し（第2章）、個々が取り組み方を掲げ（第3章）、都市デザインに取り組んだ時、様々な価値ある風景が実現します。つまり横浜都市デザイン活動は、価値ある都市の風景をつくる活動とも言えます。

そして、その価値ある風景をつくる活動は、風景を想い描くことから始まります。

都市が抱える問題・課題・要求・需要が、地域や分野・立場ごとによって違いを持つものとなり、それぞれに対して最適な効果を生むためには、それぞれの当事者個々が主体となって取り組む必要があります。

そのため、風景はそれぞれが想い描くこと、風景を思い描こうとすることが重要です。

この別章は、都市デザイン活動を始めるために個々が想い描いた風景やそれをもとに議論し風景を綴じておくスケッチブックです。

この風景スケッチブックに完成はありません。

今ここに描き込まれている風景は、本ビジョン策定にあたって横浜市が、実現性の有無を問わず、風景を想い描き、アイデアを出し合い、描き込んでみたものです。

そしてここからは、皆さんが、今描き込まれているアイデアをヒントに、描き加えてください。

都市横浜をどうデザインするのか。都市横浜の未来の風景をどう想い描き実現していくのか。

ここまでで本ビジョンが提示した着眼点・価値観・取り組み方は、個々が風景を想い描き、共有し、取り組み、価値ある風景を生むための羅針盤なのです。

個々が都市横浜の未来の風景を想い描き、共有し、日々その実現に向けて主体的に取り組む状況が生まれた時、都市デザイン活動は日常化され、理念に掲げる都市の実現に大きく近づくのです。



笑う。食べる。学ぶ。
働く。遊ぶ。深呼吸する。
生きていくうえで関わるすべてのことが、
手の届く範囲の中にある。
港と丘、文化と自然、歴史あるものと新しきもの。
時には葛藤しながらも、
様々なものをやさしく包み込み、
人が、人と、人らしく、すごせる街。
自然に、自分らしくいられる街。
そんな街で、あなたとわたしが、
出会い、認めあい、高めあう。

それは、ここに暮らす人たちが
自ら思い描いた、未来のヨコハマ。
長い歩みの中で、異なるものを受け入れ、
新たなものを生み出しつづけたヨコハマの、
もう始まっている未来。

いまと未来をむすぶのは、
開港を経てヨコハマが育んできた真の多様性と、
住みやすい環境を自分たちで創りだす市民のチカラ。
ここにしかない自由で開放的な風が吹き抜ける。
そんなヨコハマを、みんなで創りあげよう。

『OPEN YOKOHAMA ステートメント(横浜の未来像)』より参考に抜粋

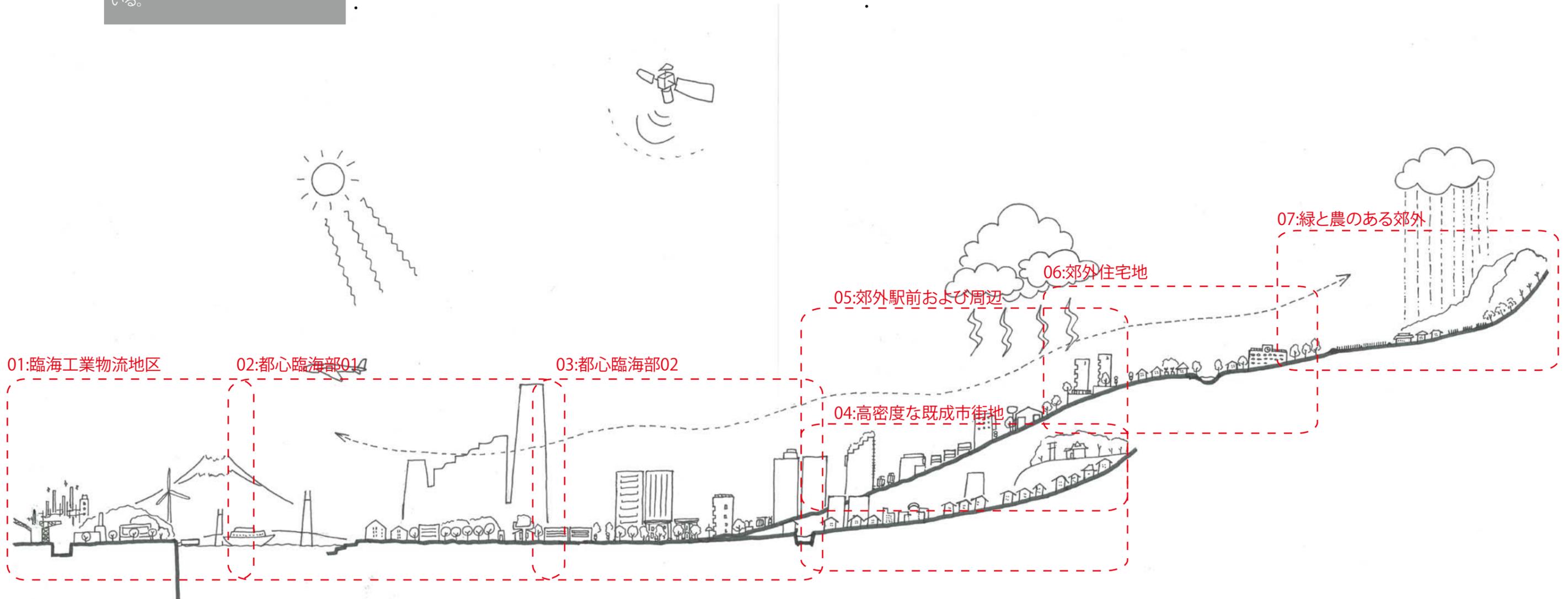
別章 都市横浜の風景スケッチブック

風景スケッチ 00:都市横浜全域

海から山までの多様なシーンを含む都市横浜の全域で様々な活動がなされている。また、都市全域を考慮した、緑、水、風などの自然のネットワークが形成され、市内外でヒト・モノ・コト・カネ・情報などの交流が活発に行われている。

- ・地形や気候、インフラの見直しを含めた都市全体の災害対策
- ・居住、労働、保育、介護などの多様なライフスタイル
- ・市域全体の独自の地形・流域などの環境や資源を活かした環境
- ・海から山を行き来する風の通り道づくり
- ・海から森に至る水でつながる都心部と郊外の水のネットワーク
- ・海辺から、都市の緑地、郊外の緑、里山まで緑が繋がる環境

- ・都心居住や郊外週末居住など、郊外と都心を行き来する人の流れ
- ・ビッグデータを活用した活動、生活支援、災害対策
- ・観光、移住など人の流れ
- ・貿易、国際交流、文化交流、技術移転など市外・国外との相互交流と連携
- ・都市全体の交通ネットワークや各地域における交通の維持
- ・都市横浜全体の持続性を高めていくための基盤や機能の最適化



別章 都市横浜の風景スケッチブック

横浜都市デザインビジョン

風景スケッチ 01:臨海工業物流地区

利用されずに眠っていた工業跡地が、土地や建物の良さを活かしながら活発に再利用されている。

- ・大規模土地利用転換
- ・新産業創出
- ・研究開発施設
- ・サステナブルシティ
- ・産業遺構 鉄道跡地
- ・工業地帯の歴史的建造物保全
- ・大型商業施設
- ・大規模映画スタジオなどによる利活用
- ・災害時避難用船着き場

工場や工業地帯でエネルギーの循環が進められ、効率的な再利用が図られている。

- ・太陽光、地熱、風力などの自然エネルギー発電と都心への供給
- ・バイオマス、生活ごみの資源化

前は工場だったんだあ

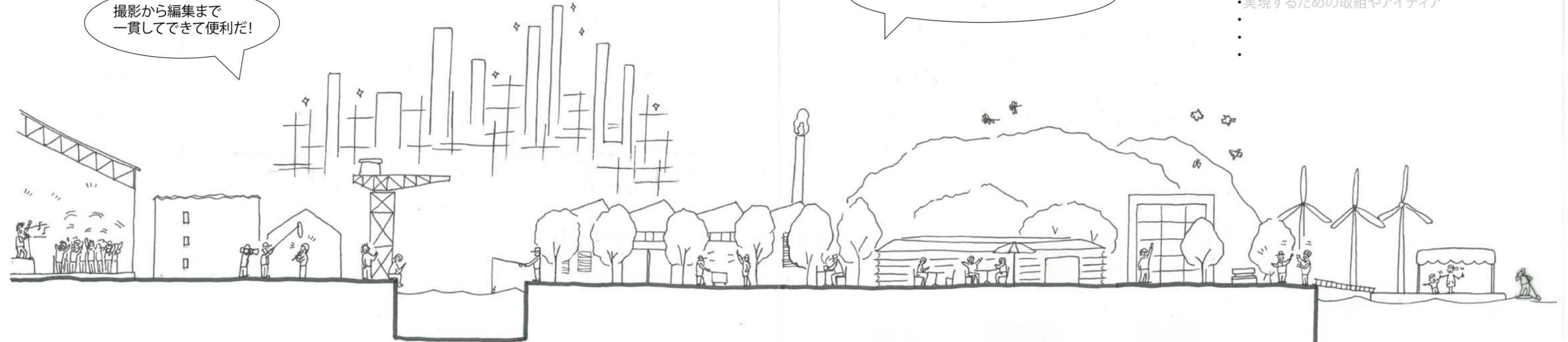
ここに会社を出そう
ここで働きたい

撮影から編集まで
一貫してできて便利だ!

使う会社からつくる会社になろう

思い描く風景の描写

- ・実現するための取組やアイデア



工場とその周辺に魅力を感じて、多くの人を訪れ、にぎわっている。

- ・工場夜景観光、テクノスケープ観光
- ・オープンファクトリー、ワークショップ
- ・音楽ライブや屋外フェスティバル
- ・魅力的な護岸や水際線

ここでライブがしたいな

思い描く風景の描写

- ・実現するための取組やアイデア

あの人とまた来たいなあ

休みの日はここにきぎる

工業地帯が緑にあふれ、その維持・管理をみんなで協力して行っている。

- ・虫や鳥、生物が棲むビオトープとそのネットワーク
- ・森づくり
- ・水際線の緑化
- ・レクリエーションの市民参加による活用

植えた花が咲いたよ!

別章 都市横浜の風景スケッチブック

横浜都市デザインビジョン

風景スケッチ 02:都心臨海部01

日本で「港」の風景
と言えば横浜だね！

想い描く風景の描写

- ・実現するための取組やアイデア
- ・
- ・

海から見た景観を意識し、
美しい港の景観が創り出されている。

- ・水際線の積極的な緑化とオープンスペースの連続的な演出
- ・港らしい遺産の積極的な活用（クレーン、倉庫、工場など）
- ・横浜港の代名詞となりうるシンボリックな施設
- ・先進的な高層建築物デザインへの取組
（高層部の環境的取組や低層部の市民利用など）
- ・特徴ある緑花
- ・富士山への眺望
- ・まちを見渡せる場所づくり
- ・
- ・

想い描く風景の描写

- ・実現するための取組やアイデア
- ・
- ・

水際のランニングが
気持ちよいなあ

今日のアーティストとの
ワークショップは楽しかったなあ

川辺・海辺の開放が進み、水辺
が市民の日常的な憩いや観光
目的地の中心となり、さまざま
な体験が提供されている。

- ・水際のレストラン等商業利用
- ・都市の特徴を活かしたアートイベントやインスタレーション
- ・水上（海上）利用
（ヨット、カヤック、水上レストラン、イベント用フロートなど）
- ・水上交通や水陸両用観光バスなどの水域交通
- ・生物等の力を活かした水質浄化
- ・ヨットと大型客船が同時に見える海らしい眺め
- ・

道路・公園等の公共空間が建物と
ともに活用され、観光客や市民も
区別なく、楽しい交流が生まれ、居
心地の良いまちとなっている。

- ・オープンカフェ・レストラン、マルシェ
- ・街なかライブ
- ・公的空間の一体的な緑花（道路×公園×建物外壁）
- ・公開空地の利用方法拡大
- ・コミュニケーションスペースづくり
- ・港の見える見通し景観の確保
- ・絵になる眺めやパブリックスペースづくり
- ・都心部での農のアピール
- ・

歴史的景観が面的に保全され、歴
史的建造物の保全・再生が進み、
文化・芸術・観光・MICEに資するユ
ニークベニューとして積極的に活
用されている。

歴史的建造物の中でウェディングが
できて幸せ！

- ・歴史を生かしたまちづくりと観光MICEの連携
- ・ユニークベニューのプロモーション
- ・近接する建築などへの修景
- ・橋梁や河川などの都市の自然資源の活用
- ・ウェディングの似合う街並み
- ・歴史的建造物の保全やリノベーション
- ・歴史的建造物を活用した不動産事業スタイル
- ・歴史的建造物周辺の建築への修景
- ・歴史的建造物を活用した文化芸術観光拠点
- ・

別章 都市横浜の風景スケッチブック

横浜都市デザインビジョン

風景スケッチ 03:都心臨海部02

想い描く風景の描写

- 実現するための取組やアイデア
-
-

都心環境が向上し、国内外の多く人が訪れたり、移り住んだり、働いたりしている。

- コンベンション施設
- 市庁舎跡地、山下埠頭等の大規模な土地利用転換
- 都心居住、職住近接によるライフスタイル
- 建物の低層部のにぎわいと街並み
-
-

想い描く風景の描写

- 実現するための取組やアイデア
-
-

人や環境にやさしい公共交通など、移動手段が多様化し、都心臨海部をワイドに移動・観光できるようになっている。

- シェアモビリティ(自転車、電気自動車、電動バイク)
- LRT、接続バス等の新たな交通
- スロー交通を考えた道路づくり
- デジタルサイネージなどによるまちの回遊性を高める案内
- 歩行ネットワーク
-
-

都心で遊べるなんて

ここで働こう

広場に来るとわくわくすることに出会える



眠っている空間や低利用だった空間が、個性的な空間として生まれ変わって新しい使い方をされている。

- 防火帯建築などのリノベーション
- コミュニケーションの機会や場づくりとにぎわい創出
- サードプレイス
- 雑然としつつもにぎやかな空間のあるまち
- 街並みと調和し、にぎわいを創出する屋外広告物
- ニッチ空間のデザイン
-
-

うまく使うって楽しいね

想い描く風景の描写

- 実現するための取組やアイデア
-
-

様々な分野や職種の人が住み、働くまちとして定着し、文化・産業・教育が活発なまちになっている。

ここなら新しいことができそう

- 文化芸術活動拠点づくりと活用
- 創造産業の育成、集積
- 横浜デザインフェスティバル、トリエンナーレ等芸術フェスティバル
- 都市空間演出(ライトアップやイルミネーション等)
- ウォールペイント
- 市民スクール、起業ラボ
- 創造的な保育環境などの新たな取組
- 介護や育児が、孤立せず、両立でき、さらには楽しめるほどになる生活環境づくり
-
-

移動自体が楽しいな

別章 都市横浜の風景スケッチブック

横浜都市デザインビジョン

風景スケッチ 04:高密度な既成市街地

坂道など地形を活かした景観を意識した環境がつけられている。

- ・海や港、富士山などの眺望の確保
- ・坂道や住宅地であることを活かした景観形成と魅力づくり(ルーフカラープランニングなど)
- ・
- ・

近所の高台から綺麗な富士山を眺めて散歩するのは気持ちいい

災害対応力を高めつつ、坂道や路地、小広場を魅力的に演出するなど、下町らしい風情も感じられるまちづくりが進んでいる。

- ・まちの小広場整備
- ・坂道、路地をコミュニティ醸成の場に
- ・防災訓練を兼ねた地域のお祭り
- ・
- ・

想い描く風景の描写

- ・実現するための取組やアイデア
- ・
- ・

下町の雰囲気素敵なので、お店を出してみようかな～

隣の空き地が子どもの遊び場だと近くて安心ね！



歩道が広がってできた地域の新しい道、大切にしていきたいね。

隣近所であいさつできるまちって、ほっとするなあ。

想い描く風景の描写

- ・実現するための取組やアイデア
- ・
- ・

地域の基盤や環境の骨格づくりとあわせて、地域活動も活発になっている。

- ・道路の拡幅と建物等のセットバック
- ・防火・耐火住宅への建て替え
- ・防犯パトロールの体制づくり
- ・坂道など地域の地形を活かした独自の景観の形成
- ・道路や公園などの地域によるマネジメント
- ・
- ・

路地性や界索性など、木造密集地域ならではの特徴を活かし、子供のための遊び場や地域住民が交流する場が生まれている。

- ・空き地の利活用
- ・通りを挟んだまちのまとまりの形成
- ・空家を利用した小規模小売店舗の新規開業
- ・地域による日常的な路地の維持管理
- ・空家のオープンスペース化等による空間のゆとりづくり
- ・
- ・

別章 都市横浜の風景スケッチブック

風景スケッチ 05: 郊外駅前および周辺

誰もが移動しやすく、使いやすい、ユニバーサルデザイン志向のコンパクトな駅周辺ができている。

- ・歩車の平面分離、歩行空間の充実
- ・歩行者優先の駅前広場とバス乗り場の分散
- ・駅前サインやまち全体の案内など、歩行者目線のサイン
- ・バリアフリー
- ・地域の交通システムのターミナル・拠点
- ・
- ・

思い描く風景の描写

・実現するための取組やアイデア

・

・

・

地場産の小松菜、おいしそう！

オープンカフェでコーヒー飲もうかな

郊外のロードサイドショップ等が、周辺の地域活動と連携したり、不要になった施設が地域活動の場として使われたりしている。

- ・様々な空間を利用した市場や祭り
- ・空き店舗や廃校を地域・多世代交流の施設としての利活用
- ・道路沿いの緑化やサイン計画など歩行者目線の空間
- ・スプロールの抑制
- ・
- ・

自分の工房を持ちたいなあ

思い描く風景の描写

・実現するための取組やアイデア

・

・

・

駅前に生活支援施設や地域の人々が集える広場があり、豊かなコミュニティが生まれている。

- ・公民連携の促進
- ・オープンカフェ
- ・朝市、夕市、マルシェ
- ・図書館や区庁舎、道路、広場・公園など、公共施設をコミュニティの場として活用
- ・地域のエリアマネジメントのセンター機能
- ・

工場・工房のあるまちが「ものづくりの営みがあるまち」として人気となっている。

- ・職住近接
- ・オープンファクトリー
- ・市民工房
- ・若い人の起業支援
- ・
- ・

別章 都市横浜の風景スケッチブック

風景スケッチ 06: 郊外住宅地

郊外の地域コミュニティによって、郊外ならではのライフスタイルに合わせた交通システムが運営されている。

- ・カーシェアリング
- ・移動スーパー
- ・

リノベーションされた団地暮らしって、緑豊かで、ゆとりがあつていいね。

子育ての間だけ、この空き家を借りてオフィス兼住居にしようかな。

郊外の戸建て住宅地が徐々に再生し、新しい郊外ライフが生まれている。

- ・オープンガーデン
- ・空き地での発電や菜園
- ・高齢者が外出したくなる街のしつらえ
- ・緑や景観など環境豊かな歩行者空間の形成
- ・複合した用途や機能をもった住宅地域
- ・空き地のシェア
- ・

思い描く風景の描写

- ・実現するための取組やアイデア
- ・
- ・
- ・

そば打ちの技を活かして、自分の家を改装して、そば屋を開こう！

第2の人生は地元に戻ってコミュニティビジネスをやろう！

廃校となった学校が用途転換されるなどして、地域を支える新たな拠点となっている。

- ・公共用地・施設の活用
- ・用途の緩和・転換
- ・民間活力やノウハウの導入
- ・地域活動やコミュニティビジネスの拠点形成
- ・公園の柔軟な活用の促進
- ・
- ・

団地ならではのゆとりある建物や敷地の特徴を活かして、多様なライフスタイルに合った再利用がされている。

- ・団地の区画全体の再生
- ・空き地、耕作放棄地の活用の可能性
- ・郊外住宅取得促進（税制優遇、農園付き住居など）
- ・各地区にあったコミュニティ空間の形成
- ・一部高齢者施設として開放するなどの多機能型団地
- ・
- ・

都心で働く必要のない人が移住したり、平日は都心で働く人が週末利用する住居として空き家を利用している。

- ・郊外移住や週末住宅
- ・週末住宅利用の促進
- ・空き家除却と空地活用
- ・
- ・

別章 都市横浜の風景スケッチブック

横浜都市デザインビジョン

風景スケッチ 07: 緑と農のある郊外

想い描く風景の描写

・実現するための取組やアイデア

・
・
・

鳥や虫などの多様な生物や地形・植生とともに暮らすライフスタイルを選ぶ人が移住してきている。

- ・河川環境の再生
- ・人が集まる空間づくり
- ・生態系の再生
- ・蛭などが棲む環境
- ・渡り鳥定着への取組

日常の移動の多くが自転車になったら、体も絶好調だよ。

想い描く風景の描写

・実現するための取組やアイデア

・
・
・

樹林地や里山に日常的に親しみ、自ら管理作業も行っている。スポーツができる場も多くあり、身近なレジャー、健康づくり、趣味活動の場として定着している。

この里山は地域の誇りだよ。うちの子どもは、隣のおじいさんにいろいろ教えてもらうのが大好き。

- ・ボランティア等里山保全活動者の送迎
- ・基地返還跡地など大規模な土地活用（スポーツ、健康、エコ等）
- ・環境・健康・福祉・生涯学習の複合的視点
- ・元気な高齢者が活躍でき、多世代が交流する機会となる里山保全活動

横浜で大地の恵みを受けながらの暮らして究極の贅沢だな～

昔からの曲がりくねった道が、歩行者や自転車等の主要動線として使われ、健康的な暮らしが営まれている。

- ・散策ルート
- ・シェアモビリティ

大都市近郊の利点を生かした農業が継承され、新規就農者も増えて定着してきている。

- ・営農環境を守っていくためのまちづくり
- ・無秩序な用途転換の制限
- ・新規就農者

このエリアは、住宅が建たないから安心して農業をやっている。新しい作物にも挑戦していきたいな！

平日は都心で暮らす人たちが空家と田畑をシェアし、週末になると菜園などをして過ごすなどしている。

- ・空家利活用促進
- ・クラインガルテン（農地の賃借）
- ・多様な市民農園の可能性（貸農園、援農方式、企業参入など）
- ・農業体験促進
- ・郊外シェアライフ促進
- ・地産地消
- ・郊外住宅取得促進の可能性（税制優遇、農園付き住居など）
- ・地域で共有する農園や庭

友人同士で、畑と家を借りたんだ。毎週末が楽しみだなあ。

—用語解説—

■序章

●P10 都心部

・一般的には、都心部とは東京の都心部というが、ここでは横浜の都心部、つまり関内・関外地区、みなとみらい21地区、横浜駅周辺地区などの、横浜市内の都市の中心的な機能をもつ地区を示す。

●P10 スカイライン

・空を背景として、建物等の輪郭が描く線のこと。

■風景

●P49 OPEN YOKOHAMA ステートメント（横浜の未来像）

・2009年、開港150周年という記念すべき年に、ヨコハマでは、市民同士が横浜の未来を語り合い、横浜の未来像を描く「市民参加型都市ブランド共創プロジェクト"イマジン・ヨコハマ"」が行われ、市民の想いを基に、「横浜の未来像」を表したステートメント、スローガン、ロゴマークが生まれた。

●P54 インスタレーション

・現代美術の手法の一つ。作品を単体としてではなく、展示する環境と有機的に関連づけることによって構想し、その総体を一つの芸術的空間として呈示すること。また、その空間。

●P55 見通し景観

・通りなどの沿道の街並みや、通りの正面方向に存在する対象物等に対する景観

●P55 ユニークベニュー

・歴史的建造物や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場

●P55 MICE

・企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

●P58 ルーフカラープランニング

・屋根の色彩等のルールづくり

●P59 木造密集地域

・木造家屋が密集し、防災上の課題等の多い地域のこと。

●P60 ユニバーサルデザイン：

あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

